

中谷宇吉郎 雪の科学館  
Nakaya Ukichiro Museum of Snow and Ice

神田 健三 (中谷宇吉郎 雪の科学館)  
Kenzo KANDA (Nakaya Ukichiro Museum of Snow and Ice)  
e-mail: yuki-mus@blue.hokuriku.ne.jp

### 1. はじめに

「雪は天から送られた手紙である」という言葉で知られる中谷宇吉郎(1900~62)は、世界で初めて人工雪をつくることに成功し、雪や氷の結晶、着氷、凍上、霧、水資源など、低温科学の諸分野を開拓した「雪博士」である。宇吉郎は随筆家としても知られ、自分の研究の過程を味わい深い文体で紹介し、科学や芸術から身近な暮らしの話題まで、健筆をふるった。また、科学映画を作り、岩波映画製作所の創設にも寄与した。油絵や墨絵を描き、助六を踊るなど、趣味も豊かであった。

「中谷宇吉郎雪の科学館」は、宇吉郎の生家があった片山津温泉に隣接する潮津町に加賀市が建設し、平成6年(1994)11月に開館した。

館建設の目的は、郷土出身の優れた科学者の人間像とその業績、研究対象だった雪と氷の科学の魅力を紹介し、市民や青少年への科学普及に寄与することであり、また、温泉をいくつも持つ加賀市の観光スポットの一つとして、多くの観光客の来訪を期待している。



図1. 中谷宇吉郎の文化人切手  
(2000年に発行された)

### 2. 建築・霧・映像

建築設計は磯崎新氏が担当した。柴山瀉に接し、白山を望むという景観を生かした設計であり、直線的な構造、古寺を思わせるような外壁、雪の結晶を象徴した六角の塔が3つ並ぶ外観などが特徴である。

中庭は、宇吉郎の最後の研究地・グリーンランドから運ばれた60トンの岩石が敷きつめてあり、ここに人工の霧(「霧の彫刻」という)が流れ、幻想的な雰囲気がつくられる。宇吉郎の次女・中谷芙二子氏の創案によるものである。

映像ホールでは、「科学するところ—中谷宇吉郎の世界」を毎日7回上映している。かつて宇吉郎が監修した映画の一部も取り込み、新たに制作したもので、宇吉郎の生涯や雪の研究を理解するのに役立つ内容である。



写真1. 中谷宇吉郎雪の科学館  
(背景に柴山瀉と白山)

### 3. 展示室には雪氷実験コーナーも

展示構想は宇吉郎門下の樋口敬二氏をチーフにした委員会によってまとめられたもので、宇吉郎の「ひととなり」、「雪の結晶」、「氷の結晶」など5つのゾーンで構成されている。

展示の解説は、随筆の表現を生かし、基本的に宇吉郎自身の言葉で行うかたちになっている。

最初のコーナーの「ひととなりゾーン」では、年代を追って、ゆかりの品、写真、ことばなどで紹介している。恩師・寺田寅彦をはじめ、各界の人との出会いや交流にも注目して欲しい。



写真 2. ひととなりゾーン

「雪の結晶」ゾーンでは、世界で初めて人工雪を成長させることに成功した、北海道大学にあった常時低温研究室の様子を復元している。そして、写真パネル、レプリカ、立体視、ビデオなど、さまざまな手法で雪の結晶について紹介している。

「氷の結晶」ゾーンには、「チンダル像」実験の体験コーナーがある。氷に強い光をあてると、氷の内部が融けだし、融ける形が雪の結晶とよく似た六角形になる。これがチンダル像で、イギリスの科学者チンダルが発見し、宇吉郎が詳しく研究



写真 3. チンダル像

(氷に光をあてると、氷の内部が融けて雪に似た形になる。この場合の“伝熱”は放射)

したものである。用意してある氷を操作して入館者が実験し、スクリーンに拡大投影させて観察する。

新たな体験コーナーとして、数年前から「ダイヤモンドダスト」の実験も行っている。冷凍庫の中で雪の赤ちゃん・氷晶を発生させるこの実験は、美しく不思議な実験として人気がある。姿を変え水についての格好の教材だと考えている。

#### 4. 生誕 100 年、開館 10 周年を経て

1994 年に開館した後、2000 年は宇吉郎の生誕 100 年、2004 年は開館 10 周年の節目にあたり、それらを記念するイベントが開催された。

生誕 100 年には、東京、北海道などでも記念のイベントが開催され、宇吉郎の文化人切手が発行され、『中谷宇吉郎集』全 8 巻（岩波書店）も刊行された。館や加賀市では、記念フォーラム、「寅彦と宇吉郎の絵画展」、全国コンペによる「雪のデザイン賞」の作品展、日本雪氷学会全国大会などを開催した。

このうち、「雪のデザイン賞」を実施したのは、雪結晶の美しさとともに、宇吉郎自身がデザインを楽しんだことが背景にあった。「雪のデザイン賞」は好評だったことから、その後も隔年開催により、コンペは第 3 回（2004 年）まで行われた。入選作品の中から、「雪と氷の ABC カルタ」、「六花氷モールド」など新しいグッズも誕生した。

2000 年は、ミレニアムとして特集を組むマスコミが多く、朝日新聞は「過去 1000 年でもっとも傑出した日本の科学者」を選ぶ読者投票を行ったが、宇吉郎は 6 位に選ばれた。

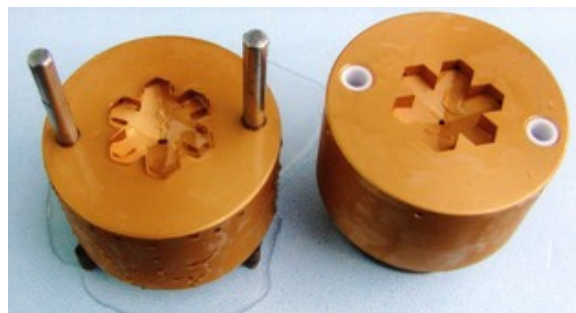


写真 4. 六花氷モールド

(氷を挟むとみるみるうちに氷のペンダントに。金属の“伝熱”（熱伝導）の教材になる)



写真 5. 雪洞のなかで結晶を観察  
(大雪山麓旭岳温泉で)

2004 年の「10 周年のつどい」では歩みをふり返った。10 年間に 33 万人余りが入館者した。

2004 年から 3 年継続の予定で「子ども雪博士教室」(文科省・科博委託事業)として、月 1～2 回、子ども対象の実験などの行事を行っている。その

一環として、年末には、美しい雪が降る北海道の大雪山麓へ親子で出かけ、結晶観察などを行っている。

今年(2005)、11～12 月には、バルト 3 国の 1 つ、ラトビア共和国で、宇吉郎と雪氷を軸にした展覧会が開催される。

#### 5. 来館案内

住 所：〒922-0411 石川県加賀市潮津町4-106

電 話：0761-75-3323

開館時間：9：00～17：00 (入館は 16：30 まで)

休館日：水曜日(祝日の場合は開館)、年末年始

入館料：大人 500 円、75 才以上 250 円、高校生以下無料。(団体割引)20 名以上で 1 人 420 円

交 通：北陸自動車道片山津インターから車で 5 分。JR 加賀温泉駅からバス(CAN BUS)で 15 分。小松空港から車で 15 分

ホームページ：

<http://www.city.kaga.ishikawa.jp/yuki/>